



文教大学教育研究所
〒343-8511
埼玉県越谷市南荻島 3337
Tel. 048-974-8811

教育研究所 ニュース

<http://www.bunkyo.ac.jp/faculty/kyouken/>

2017.10第47号

- 巻頭言
- 2017年度世界の教科書展
特集：ラオスの教科書
- 2017年度「定例研究会」
「文教大学の授業」

世界の教科書コレクション 新規受贈教科書 18カ国、7249冊

文教大学教育研究所 所長 平 正 人

この度、「公益財団法人モラロジー研究所」から、海外18ヶ国の教科書およそ7000冊を受贈した。これによって教育研究所が所蔵する世界の教科書コレクションは計31ヶ国、およそ1万冊に達することになる。これは国内では「公益財団法人教科書研究センター附属教科書図書館」に次ぐ保有量になる。今回は新たに加えられた教科書の受贈経緯と概要を紹介したい。

まず、モラロジー研究所は115か国の教科書約1万5000冊を保有していたが、研究所施設の建て替えにともない、教科書の処分を検討するに至った。モラロジー研究所はそれらの受け入れを前述の教科書図書館に打診したが、同図書館は保管スペースの確保の問題からすべての教科書の受け入れは困難であるとして、それらの一部を文教大学教育研究所に寄贈するようにモラロジー研究所に提案した。本学研究所に受け入れの申し出があった18ヶ国の教科書およそ7000冊は、本学研究所のコレクションに含まれていない国の教科書が多数含まれていることから、この申し出を受諾した。

次に、受贈教科書の概要である。まず本学研究所のコレクションに含まれていない国の教科書として、香港（新規受贈236冊）、台湾（168冊）、イタリア（497冊）、カナダ（266冊）、スウェーデン（81冊）など、アジア諸国や欧米の主要国の教科書が新たに加わり、続いて、旧東ドイツ（48冊）、旧西ドイツ（256冊）、旧ソ連（280冊）など、いまでは入手困難な教科書も含まれている。次に、本学研究所が所蔵している教科書のうち、その数が少ない国の教科書として、アメリカ（1489冊）[本学研究所所蔵30冊]、フランス（616冊）[27冊]、スイス（150冊）[3冊]などがあり、既存のコレクションは質・量ともに十分に拡充される。さらに、本学研究所が一定数の教科書を所蔵している教科書として、中国（832冊）[155冊]、韓国（549冊）[158冊]、ドイツ（760冊）[146冊]、イギリス（735冊）[63冊]、スペイン（150冊）[74冊]、フィンランド（97冊）[127冊]、ロシア（39冊）[269冊]がある。重複が予想されるこれらの教科書については、既存の教科書との照合を今後進めていく予定である。

最後に、今回の受贈教科書については、「教科・教科書タイトル・著者・出版社・出版地・出版年」を記入した目録を作成しており、既存のコレクションの目録とともに、本学研究所にて参照可能である。

2017 年度世界の教科書展
特集：ラオスの教科書

世界情勢が刻一刻と変化する一方、常に変わらないものがある。それは、次世代を担う子どもたちに対する教育への思いだ。その教育を映し出すのが教科書である。しかし世界には、子どもの数に対して教科書が全く足りず、一冊の教科書を教室で回し読みしながら学ばざるをえない子どもたちも少なくない。そうした地域の事情を学び、自分に何ができるか考える機会を持つことは重要である。今回の教科書展がそのきっかけになればと願っている。

ラオスはベトナム、タイ、カンボジア、中国、ミャンマーに囲まれた東南アジア唯一の内陸国である。人口は約 720 万人で、国民の多くは仏教徒である。タイとの国境沿いには東南アジア最長のメコン河が流れ、ラオスはメコンの宝石とも呼ばれている。近年、メコン河流域での多国間開発により、環境が大きく変貌しつつあり、日本企業の新たな進出先としても注目されている。

教育等は外国からの援助に支えられている。そのため、援助によって教育の内容も左右されてしまう。また、多民族国家でありながら、教育言語は公用語（ラオス語）であるので、ラオス語が母語でない少数民族の子どもにとって困難が多い。その他、地理的な要因、家庭事情等が要因となっており、初等教育段階でも 2 割以上の子どもが退学せざるを得ない状況にある。こうした子どもに対して、教科書や学ぶ場の提供、母語・教授言語のサポート等が求められている。また、教育環境の整備の他、教育への大人の関心や識字率を向上させること、教員養成も重要な課題となっている。

様々な課題はあるものの、独自のペースで慎み深く暮らすラオスの人々の中こそ、現在社会が忘れかけた魅力がある。会場では、ラオスの教科書を手にとっていただき、ラオスの「いま」を体感していただきたい。

(研究部主任 山川 智子)

公開「定例研究会」発表一覧

第93回 11月4日(土)

- ・地域の教育力向上における実証的研究(1)
—「青少年育成推進協議会」の活動に着目して—
栗原 保
- ・社会教育主事の専門性に関する研究
—実践と専門性の言語化に向けて—
阪本 陽子
- ・「主体的・対話的で深い学び」を目指す道徳教育の研究
—「特別の教科 道徳」の評価を意識した実践—
清水 香保里
- ・夜間中学政策の現状と課題
—義務教育の多様化—
矢作 由美子

第94回 11月5日(日)

- ・小学校英語におけるICT活用 浅川 有紗
- ・幼稚園教育要領改訂の変遷と今後の課題
綾 牧子
- ・体育における主体的・対話的で深い学びの実践
—ネット型ゲームのプレルボールを通して—
市河 大
- ・ICTを活用した「特別の教科 道徳」の実践
—「考え、議論する道徳」への転換に向けて—
清水 祥平

第95回 3月3日(土)

- ・日本人の「学び」に関する一考察 青木 大輔
 - ・社会科教育における地域博物館の活用・連携の再検討 加藤 紫識
- …興味のある方は、どうぞご参加ください…

2017 年度
『文教大学の授業』執筆者紹介

- 第60号 人間科学部 村上 純一 先生(既刊)
- 第61号 教育学部 小嶋 英夫 先生(既刊)
- 第62号 国際学部 山田 修嗣 先生(既刊)
- 第63号 健康栄養学部 笠岡 誠一 先生

2017年度 教育研究所スタッフ

所 長	平 正人		
研究部主任	山川 智子	研修部主任	加藤 純一
事 務	紀井 佳奈子		